

八月七日

セットしておいた部屋のアラームで六時に起きた。今までずっと八時三十分頃目を覚まし、十時頃出発するというパターンだったが、この日ばかりは早く起きた。早めにフェリーターミナルへ行ってみようと思った。

七時過ぎにホテルをチェックアウトだ。きのう見つけておいたセブンイレブンでパンとトマトジュースを買った。MTX200Rのライダーが同じように買物をしていた。

そしてフェリーターミナルへ行く。途中、信号待ちをしていたら、隣に並んだライダーから話しかけられた。彼はこれから北海道を走るのだと言う。俺は埠頭の入り口で右折だ。手を振ってそのライダーと別れた。ピース！

同じ場所、同じような時刻なのに、天気のせいか初めて来たときにはまるで違う景色に見える。この前は寒々として荒涼としていたフェリーターミナルも、今日は明るく輝いて見える。

もう、何台ものバイクが集まって乗船を待っていた。

ターミナルビルの窓口で乗船手続きを待っているときに、前にいた三〇代半ばらしい男と話をした。この男もライダーなのだが、転倒して手を怪我したため、ツーリングを途中でやめて帰るのだ、ということだった。しかもバイクが90ccで、一日で東京から函館まで陸路を走って渡ったことを聞かされて驚いた。この男とは結局、有明まで付き合うことになった。

乗船手続きを終えて、駐車場の隅でこの男と話をしながら、買ってきたパンを食った。

九時頃になって、ようやく乗船となる。今度の船はしれとこ丸だった。さっぽろ丸よりは小さいし古い。バイクを積むデッキなど、頭がつかえてしまうほど狭かった。

今度もレストランで待たされる。ここも明らかにさっぽろ丸よりも落ちる。往きと同様に、俺が一番最初に部屋へ入る。後からやってきたのは横浜から来たというサラリーマンの若者三人組と、途中でクルマを事故って置いてきたという初老のやせた男、そしてもう一人、わけのわからない男だった。この男はどうとう最後まで口を

きかず、一人で影のように船の中を行ったり来たりしていた。

出港の一時間くらい前から、デッキの最後尾でしゃがみこんだ。日光浴も兼ねて出港を見ようというわけだ。まだバイクやクルマがターミナルビルの前を走って、この船に乗り込んで来るのが見える。いよいよ北海道ともお別れか！そして十一時四十五分、予定通りしれとこ丸は苫小牧のフェリーターミナルから出港した。カモメが赤いゲートの上を舞っていた。

陸地はゆっくりと、しかし確実に遠ざかっていき、そしてついに見えなくなった。

北海道は見えなくなり、青い海の真っ只中に放り出されていた。

完